



金沢百万石

Kanazawa Hyakumangoku

KanazawaMillion Weekly Bulletin No. 0670 2012 11.1

Innovation for the Rotary club ロータリーに新風を 2012年11月のロータリーレートは 1ドル=80円

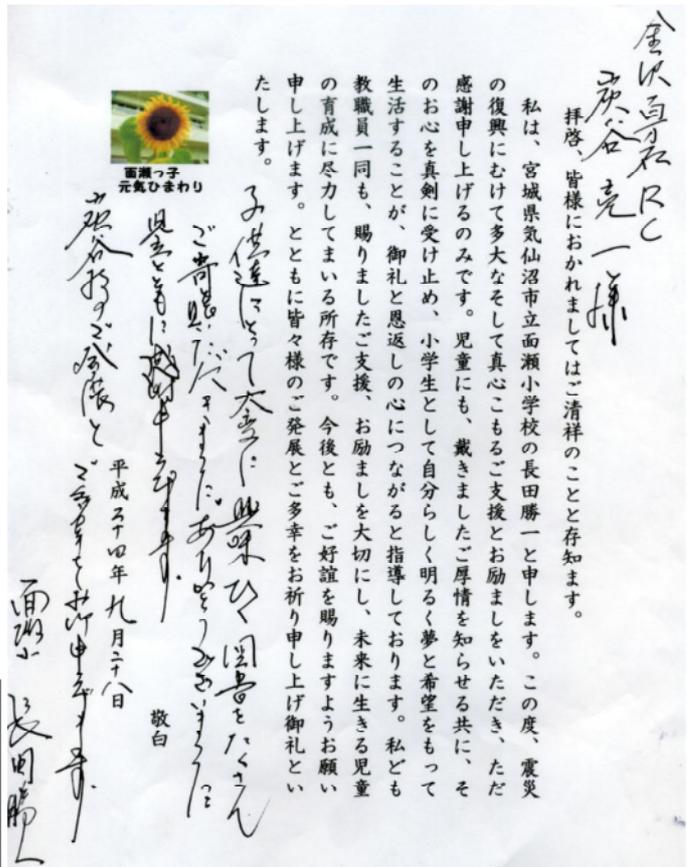
気仙沼市立面瀬小学校生徒から図書のお礼

3年1組 梶原夢奈：こないだは面瀬小学校の皆さんに本をたくさんくれてありがとうございました。本が雨期になるためにいっぱい読みたいです。みなさんでたいせつにつかいたいと思います。とても嬉しいです。ありがとうございました。

3年1組 小野寺 蓮：僕は、本がだいすきなのでいっぱい読みたいと思います。いろんな本をいろんなことをしりたいです。ぼくたちのために本をたくさんくれてほんとうにありがとうございました。本は大事にします。

3年1組 三浦 花菜：本をたくさん有り難うございました。わたしは、本はあまりすきじゃないけどちょっとずつでもいいから本がすきになってみたいです。

3年1組 藤田 藍李：本をありがとうございました。たくさん本を読むのが楽しみです!! たくさん読みます。



クラブ例会予定		2012-2013年度
11/1	高木 進様	
11/8	柳生 好春様(野々市 RC)	
11/15	例会休会	
11/22	郭 蕨様(百万石 RC 米山奨学生)	

2012～2013

(役員) 会長：北山吉明 エコ：野城 勲 副会長：宮永満祐美 幹事：川きみよ 副幹事：上杉輝子
 直前会長 会計：西村邦雄

(理事) クラブ管理運営委員長：村田祐一 副：相良光貞(親睦：金沂秀 プログラム：若狭豊
 SAA：上杉輝子 ニコニコ：井口千夏 友好・クラブ細則：魏賢任)

奉仕プロジェクト委員長：竹田敬一郎 副：後出博敏(職業：土田初子 社会新世代：武藤清秀
 国際：宮永満祐美 ラオプロジェクト：岩倉舟伊智)

会員組織委員長：二木秀樹 副：江守巧 会員増強修練：金沂秀

ロータリー財団委員長：藤間勸菊 副：東海林也令子(ロータリー財団・米山：藤間勸菊 年次寄付：北山吉明)

広報委員会委員長：吉田昭生 副：江守道子(広報：谷伊津子 ロータリー情報：木場紀子
 会報：石丸幹夫) 常任理事：石丸幹夫 ★太字：理事役員

長期姉妹クラブ担当 南光州：金 石丸 岩倉 江守巧 村田 東京世田谷中央：炭谷 岩倉 石丸 木村幸生 藤間
 京都北東：炭谷 杵屋 水野 高崎：石丸 村田 藤間 宮永

例会場 ホテル日航金沢 5F 〒920-0853 金沢市本町 2-15-1 T076-234-11111 例会日時 木曜日 19：00
 事務局 ライブ1ビル 2F 〒920-0852 金沢市此花町 3-2 T076-262-2211 F076-262-2241 (事務局) 阿原美和
 E-mail khrc@quartz.ocn.ne.jp ホームページ URL http://www17.ocn.ne.jp/~hrc/
 事務局執務時間 月火水金 9：00～15：00 木 9：00～12：00、17:30～20:00 休憩時間 12：00～13：00
 休日(土日祝日) 幹事 川きみよ 090/9766/6666 副幹事 上杉輝子 090

3年1組 千葉 瑞姫：本をくれたみなさんへ。すてきな本をありがとうございます。わたしはすごくうれしいです。なぜかという、わたしは本が大好きだからです。本はけつまつが、きぶんも、なんか、しーんとなってけつまつがたのしいことだと、きぶんもよくなってきますよね。そういうところが好きなんです！本当にすてきな本をありがとうございました。

3年1組 阿部 和奏：いつもたくさんのおしえんをありがとうございます。みんなからのしえんがうれしかったよ。学校でいろんなことができるようになったよ。おもせ川にいつてすごくたのしかった しえんさんがきてくれるときすごく楽しかったよ。

3年2組 三浦 元：しえんありがとうございます。こんどはこっちがしえんしたいです。ぼくはみんなとサッカーしています。

4年1組 市場 夏妃：図書しつの本をくださって有り難うございます。私は本が大好きなのでごく大喜びです。雨の日休み時間はんを見に来ます。どれも楽しい本ですね。私の友だちも えがお です。えがお をくださってありがとうございました。

4年1組 小松 陽世：本をくれた人へ 本をくれてありがとうございます。わたしは本が好きです。だから本がふえてとてもうれしいです。いろいろな本をよみたいです。

4年1組 及川 響：本をくれた人へ 本をくれてありがとうございます。わたしは、本が好きで本がもらえてうれしかったです。また、いろいろな本がよめてうれしかったです。

4年1組 小松 優波：本をくれたかたがたのみなさま、私たちのために本をくださりありがとうございます。

4年2組 日野 花菜：本をわざわざとどけてくれてありがとうございます。わたしは本が大好きです。なのでいろいろな本が来るとわくわくします。なのでこれからも本をとどけて下さい。おねがいします。



例会優り

672回

ホテル日航金沢5F

2012 10.25 (木) 19:00

例会出席率 21/35 60.00 %

9月修正出席率 72.33%



チャリティコンサートをするときに、収益金を赤十字や県の窓口を通して寄付するなら、著作権料は要らないと JASLAC (日本著作権協会) が言ったので、私も始めの2回はこれに従って寄付をしました。ところがその結果、何もかもがあまりに事務的に処理されるので、大変ショックを受けました。それ以降は、たとえ著作権料金を払ってでも、顔の見える相手に寄付金を送りたいと思うようになりました。そんな訳で3回目のチャリティコンサートの収益金を福島県の NPO はっぴーあいらんどに送りました。それがご縁で今回の郡山のフェスティバルに参加することになりました。そしてスタッフや、参加者との間に多くの絆ができました。

さて、東北出身の歌手、クミコさんが、「ツナガル」という震災の歌を作りました。これを石巻の子どもたちと合唱しています。「ツナガル」とは絆を創る事です。お金の役割はツナガルためのきっかけを作ることにしかすぎません。お金を渡して終わりではありません。顔をみて言葉を交わし、ツナガラないとお金は死んでしまうと思います。ツナガれば忘れません。忘れないから気になり心配になります。そして、心が動きます。関心が生まれ、考えるようになります。お金が生きるためには渡す相手をはっきり決めて、ツナガラなければなりません。

もし、日本中の人たちがツナガれば、一人がみんなのために、みんなが一人のために動けます。そうならば、震災復興と安心、安全な国づくりがきっと実現されると思います。

ゲスト紹介：(卓話者) (株)大塚製薬工場 OS-1 事業部 峰晴 忠行 様 (米山奨学生) 郭 純 様

ビジターのご紹介 (無し)

《食 事》



幹事報告・委員会報告

川きみよ幹事：① 11/10 ~ 11 は地区大会ですがクラブからは18名が参加いたします。御確認をお願いします。②白山 RC の中川氏からですが第22回のロータリー奉仕の源流の会が1/19 (土) 行われますのでご出席の方は事務局までお願いします。

ニコニコ Box



¥6,000- 本年度 ¥215,000- 残高 ¥4,292,216

北山会長：ようこそ、いつもスポーツドクターがお世話になっている大塚製薬の峰晴忠行様、宜しくお願ひ致します。 井口会員：峰晴様、本日はようこそ百万石へ。宜しくお願ひ致します。

炭谷会員：今夜の卓話に峰晴様をお迎えて、よろしく。 藤間会員：峰晴様、ようこそ。昨年地区大会では大塚美術館の皆様にお世話になりました。郭蕪さんと珠洲R.Cへ行って参りました。 宮永会員：峰晴様、ようこそ。昨年大塚美術館の方々には地区大会にご参加頂きました。 若狭会員：峰晴様、本日の卓話よろしくお願ひ致します。

講話の時間

(株)大塚製薬工場 OS-1 事業部 峰晴 忠行 様



プロフィール： 1992年3月 静岡県立大学食品栄養科学部を卒業
同年4月 株式会社大塚製薬工場へ入社 初めての業務は開発部での臨床治験
主に統計解析担当者として厚生労働省への申請データの解析業務を行う

1997年 (株)大塚製薬工場で初の医療用食品開発プロジェクトが立ち上がる
当時、大塚グループでは「ハイネックスR」という「カロリーメイト」の元になった濃厚流動食が販売されていたが、これに続く新製品の開発が課題

出身大学が食品系ということから異動となり、研究所の経腸栄養担当者として濃厚流動食の開発業務を担当
濃厚流動食の処方検討などの製剤設計などを行い、現在「ハイネ」と呼ばれる濃厚流動食が大塚製薬工場より販売されているが、そのプロトタイプを作り上げる
又、同時期に開発中であった経口補水液オーエスワンの病者用食品の

表示許可申請に絡んで、臨床試験の担当者を兼務

2002年 まだエリア限定の試験販売レベルでしたが、大塚製薬工場として初の病者用食品が販売開始
生産移行の為、研究部門から医療用食品に精通した者が必要と言うことで、間接部門である資材部へ異動
資材部では委託製造品担当として、大塚製薬工場の医療用食品の委託製造元での生産立ち上げやこれに伴う製造、製品規格、取引に関する交渉などの業務を行う

2005年 オーエスワンが全国販売

研究開発から製品の製造まで幅広く経験させて頂いたことから、未だ経験したことのない営業職を希望、結果、異動となり OS-1 事業部の営業担当者として現在に至る

北陸三県を一人で担当、富山県や福井県なども走り回っているが、グループ各社の医療担当者やボカリ担当者などにも助けて頂きながら、営業業務を続ける

プライベートでは、3人の子供の父として子育てに手を焼いている

子ども達が音楽に興味を持ったこともあり、オフの時は、エレクトーンを弾いて楽しんでいる

講話： 「 脱水と経口補水療法について 」

人の体は6割が水です。ただし、小児では7～8割、成人は6割、高齢者は5割が水です。特に高齢者は脱水症になりやすく、は大変気遣います。また腎機能もおちています。MRIで見ますとふとももは70才代では20才台に比べてびっくりするほど筋肉が減り、脂肪ばかりですね。

水をたくわえる場所も大変少なくなります。又 小児も脱水症になりやすく、乳幼児では蓄えの1/2が一日で出てしまいます。大人は14%が出入りで2リットルです。この水の出入バランスは大変重要です。約2リットルの内訳は飲み物1リットル、食べ物1リットルで取り、大便、尿、汗不感蒸発などで2リットルがでていきます。

体のいろんな所にある水は細胞間を移動するには塩分が必要になります。ナメクジが塩で溶けますね。あれは浸透圧が変化したせいですね。この塩分は食べ物から体に入ります。例えば普通1食で水330mlで2～5gの塩分となりますが、一日1リットルは水を必要としますから、一食めくと330ml不足します。下痢や嘔吐をしま



すと1～2食分の水分や塩分が出てしまいますので、少なくとも1リットルの水をとらねばなりません。ここで水の救急箱が必要になります。症状は脱水を起こしますと血圧も下がり、①腋窩の湿り気がなくなり乾いている。②爪を押すと白くなるが、はなしても2秒以内で赤く戻らない。③皮膚をつねってみると、その元に戻りが遅い。が簡単な診断法です。

熱中症と脱水症：10/17での統計によりますと43864人の熱中症の中42.5%がお年寄りです。10万人換算では石川県では40人が熱中症に成り、死亡者はやはりお年寄りに多い。10才台では部活、幼児は車内の放置です。屋内でもあり、60%が高齢者で、クーラーを止めて、戸を締めて鬱熱状態でした。皮膚からの汗蒸発が水を減らし、体温を上げる。そこで又汗がでてまた体の水が減る。ついに体温調節不能になってしまいます。発汗も少なくなります。だんだん体はゆで卵の様になります。対策は、部屋の温度や湿度を下げる、水分、食事、塩分と休養をきちんと取る必要があります。症状は発汗、めまい、立ちくらみ、こむらがえりで起こります。対策は首の下、脇の下等太い血管のあるところ冷やす必要があります。

冬の脱水症は10月下旬頃からはじまるノロウイルスやロタウイルス感染の下痢があります。ウイルスには特効薬がなく、脱水症の治療が重要になります。先ず経口補水療法次いで重症例には点滴になります。補水はよくききます。コレラ症の例でもスライドのように2～3日でよくなります。この水分は水だけではだめでして、体液の恒常性のために、それに近いものを使わなければなりません。特に下痢や嘔吐がありますと、大量の塩分が出ますので経口補液が必要になります。病院でも治療開始までに時間がかかり過ぎますと経口補液が間にあわずに点滴療法になってしまいます事があります。早めに経口補水療法をしますと、良くなる様です。

質疑応答

会長より謝辞・謝礼

点 鐘

パストガバナーからの手紙

炭谷 亮一

「石原都知事と道州制」

先日石原氏の都知事辞任会見で、国政復帰について「明治以来続いている官僚制度をシャッフルしないと国民が報われない。命のあるうちに最後のご奉公をし、中央官僚の支配を変えなければだめだ」と説明した。

以上石原氏の見解を私なりに解釈すると、以下の様になる。中央集権国家として明治以来140年続いて来たが、日本において中央集権制度は破綻している。疲弊した制度は、もはや小手先の改革ではどうにもならない。今こそ新しい制度である地方分権（地域主権）を推進することが必要であり、これが「道州制」であり、「道州制」に移行することは、現在の日本の国の形に適応した、合理的かつ効率の良い内政が行えることである。これが日本国の為、日本国民の為であり、しいては日本再生、日本興隆へつながる唯一の道であると考えているのであろう。

さて、「道州制」そのものを考察して見ると、「道州制」は都道府県合併でもなければ、国の出先機関の統合でもない。都道府県に代わる。新たな中間政府として「道州」をおき、地方分権を進めることで、そこを内政の拠点とする新たな形の国を作ろうとすることであり、政府の仕組みを大胆に変えることである。

大きな視点に立てば、第一の改革は明治維新であり、第二の改革は戦後改革であり、そして今回の「道州制」は第三の改革と考えて良い。例を挙げれば、米国では各州は内政において完全自治を持つ独立政府であり、これを統合するのが連邦政府である。日本における「道州制」においてもほぼ同様であると言える。

実は二十世紀の中央集権体制に終止符を打つねらいで2000年からすでに地方分権改革が始まっているが、改革のテンポが遅い上に「グランドデザイン」がはっきりせず、国民に新たな「国のかたち」のメッセージが良く伝わっていないのが現状である。

大略は以下である。

1. 内政の権限を「道州」に移し内政の拠点とし、10州程度とする。
2. 国は、外交、防衛、司法・通貨管理、年金保険など国家行政に相応しい業務に限定。
3. 国の出先機関は、検疫、司法、検察などを除き廃止する。
4. 「道州」間の格差是正は「道州」間で調整し、「道州」内の市町村格差は「道州」の責任で是正する。
5. 大都市東京、横浜、名古屋、大阪は「都市州」とする。

ここで問題となってくるのは4、5である。4については現在の日本では日本中どこにいてもある程度一定の行政サービスをすべての日本人は受けることが出来るが、「道州制」の場合、格差是正が容易に行われない場合には、行政サービスに格差が生ずる恐れがある。勝ち組、負け組がはっきりしてしまう可能性がある。5について特に「東京都」は突出しており、その突出ぶりは以下の様である。国土の1%の面積に人口の10%の1300万人が住み東京都のGDPは国全体の20%を占め、日本の国税の40%が徴収されている。まったく想定外の大都市である。「道州制」議論の中で最も難問中の難問は東京をどう扱うかと言う点にある。

以上解決すべき難題を抱えているが、ここは日本人の大いなる英知をもってすれば解決できると私は信じている。我々日本人は変えるべき事項は変えるという選択に躊躇すべきではなく、明るい未来に向けて歩み出したいものである。

E-mail : nam-gwangju@hanmail.net

こんにちは。私たちのクラブとマッチンググラント プロジェクトに共にして下さって感謝申し上げます。
 マッチンググラント書類を検討して、署名された後また南光州（クァンジュ）ロータリークラブ メールに送られば
 感謝します。E-mail:nam-gwangju @ hanmail.net

マッチンググラント提案書

- 1.プロジェクト内容**：プロジェクト場所は和順郡（ホァスンゴン）と長城郡（チャンソンゴン）は農村地域として老人層がたくさん住んでおり、彼らは定期的にぜい弱な反面、慢性疾患者が多い。しかし彼らを世話する保健所は彼らが必要とする医療機資材が不足した現実である。このような不足した機資材中、一部でも南光州（クァンジュ）ロータリークラブで用意してみたプロジェクトの主な事業内容である。
- 2.プロジェクト施行場所**：大韓民国,和順郡（ホァスンゴン）と長城郡（チャンソンゴン）の保健所に医療機支援
- 3.ホストクラブ/地区**：南光州（クァンジュ）ロータリークラブ(クラブ ID 16825) / 3710 地区(大韓民国)
 -クラブ会長:金ヒボン 010-3603-1509 -クラブ国際奉仕委員長 010-9605-6484
- 4.パートナークラブ/地区**：金沢百万石ロータリークラブ/ 2610 地区(日本)
- 5 プロジェクト予算**：ホスト パートナーロータリークラブ国際パートナーロータリークラブ
 南光州（クァンジュ）RC \$1,000 金沢百万石 RC \$1,000 3710 地区(DDF) \$2,000 2610 地区(DDF) \$2,000
 ロータリー財団(TRF) \$5,000 総予算\$11,000

Budget item 予算案	Name of supplier	Amount
Reflizerlator for drugs and Vaccines 冷蔵庫	Samho equipment	w 7,000,000
Warm bed matt 温熱ベッドマット		w 1,485,000
Massage chair マッサージ椅子		w 1,720,000
foot massage 足マッサージ器		w 1,400,000
electricity stimulator 電気刺激器		w 550,000
ultrared electric machine 赤外線治療器		w 495,000

w 12,650,000
US\$1=1,150
\$11,000

全国をつなげよう！！ 災害絆プロジェクト

熱い若者：湯澤 真さんの講演会がありました。



被災地南三陸町で一年以上ボランティア活動をしていました湯澤 真(まこっちゃん)です!! そして現在日本一周しながら各地で被災地へのメッセージを集めています。なぜメッセージを集めているか、震災から半年… 一年… 一年半…だんだんニュースの報道は少なくなり、被災地の現状を知らない方はたくさんいると思います。そんな中被災地はどんどん風化していきます。復興に向けてやっと出来た復興商店街に観光客がほとんどいない、ボランティアの数も減る一方…、そして忘れ去られる被災地のこと、特に深刻な問題を抱えている福島県の現状を伝えたい!!



被災地での一年四ヶ月のボランティア活動を活かし、私自身が全国を駆け巡り一人でも多くの方に直接伝えたい!! そのきっかけ作りとしてメッセージを集めています!

メッセージを書く事によって被災地を考える機会を作り、一人一人のメッセージが被災地の元気に変わる!!、私たちは被災地を忘れていないよ! 離れていても応援しているよ!

その想いを被災地に届けましょう!! ご協力よろしくお願します!!

クラブからの 出席者 北山夫妻、村田夫妻 金会員 石丸会員

2012年 10月 30日 (火曜日) ごご7時 IT ビジネスプラザ武蔵 5 F 研修室にて

